

企業動向調査 2020年9月

この調査は、富山県内企業186社からのアンケート結果をまとめたものである。
 企業の調査資料として、令和2年7月～9月の実績、令和2年10月～12月の見込み、令和3年1月～3月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

回答企業数
186

調査時期：令和2年10月下旬
 方法：インターネットによる当行取引先へのアンケート実施

日本銀行富山事務所が11月12日に公表した「富山県金融経済クォーターリー（2020年秋）」によると、「富山県の景気は、厳しい状況ながら、持ち直している。最終需要をみると、個人消費は、厳しい状況ながら、持ち直している、住宅投資は、弱い動きとなっている。設備投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、高水準で横ばい圏内の動きとなっている。」としている。

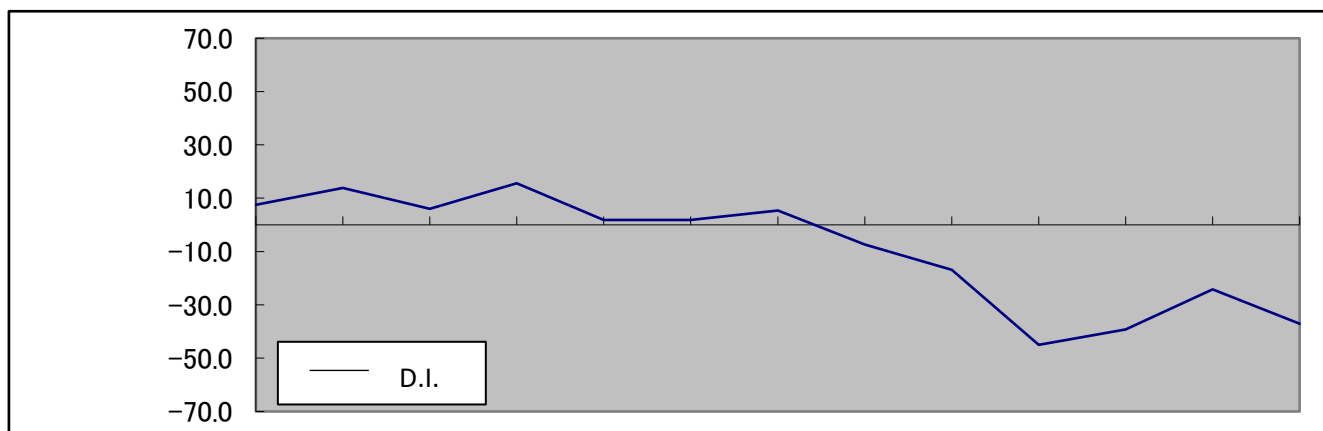
ただし、2020年11月からのコロナ第三波の到来により2021年1月8日に緊急事態宣言が発令され、今後の経済の動向には注視が必要である。

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

（%） 見込 予測

種別	期別	30年				31年 元年				2年				3年
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
良	い	18.6	24.8	21.6	23.8	19.3	21.3	22.7	14.8	15.0	9.1	11.8	13.4	7.0
普	通	70.4	64.2	62.8	68.0	63.2	59.2	59.9	63.1	53.1	36.8	37.1	48.9	48.9
悪	い	11.1	10.9	15.6	8.2	17.5	19.4	17.4	22.1	31.9	54.1	51.1	37.6	44.1
D . I .		7.5	13.9	6.0	15.6	1.9	1.9	5.4	-7.4	-16.9	-45.0	-39.2	-24.2	-37.1

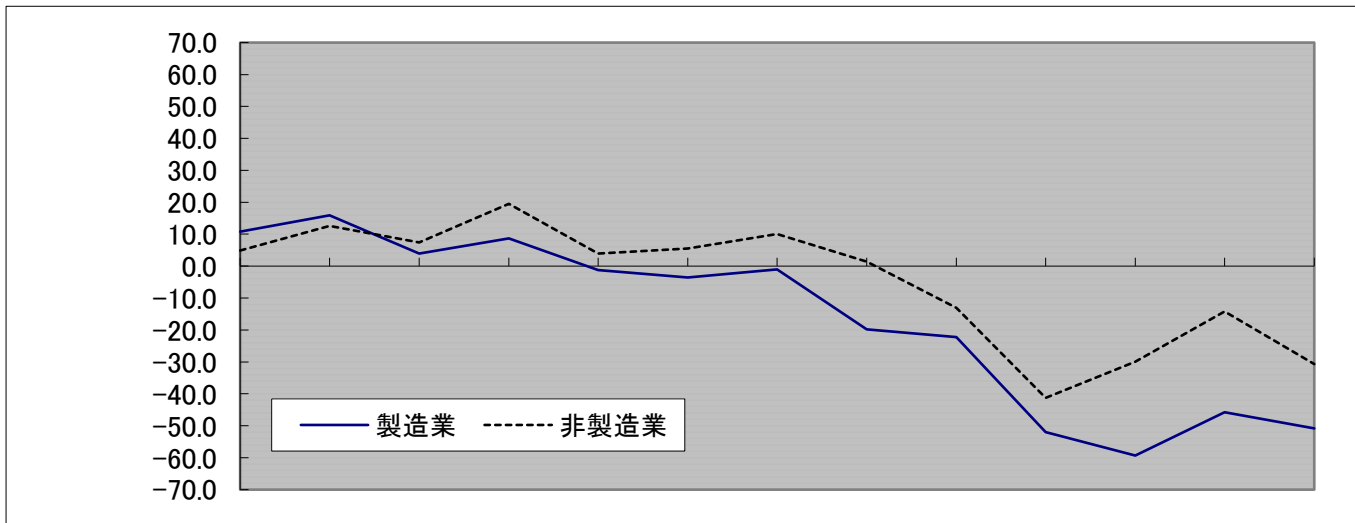


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

		（%）												見込	予測
		30年				31年 元年				2年				3年	
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
良	い	22.5	29.0	20.8	19.6	16.7	21.4	22.5	11.9	13.9	7.8	8.5	10.2	5.1	
普	通	65.8	57.9	62.3	69.6	65.5	53.6	53.9	56.4	50.0	32.5	23.7	33.9	39.0	
悪	い	11.7	13.1	16.9	10.9	17.9	25.0	23.5	31.7	36.1	59.7	67.8	55.9	55.9	
D . I .		10.8	15.9	3.9	8.7	-1.2	-3.6	-1.0	-19.8	-22.2	-51.9	-59.3	-45.8	-50.8	

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

		（%）												見込	予測
		30年				31年 元年				2年				3年	
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
良	い	15.5	22.2	22.1	26.2	21.1	21.3	22.9	16.8	15.8	9.8	13.4	15.0	7.9	
普	通	73.9	68.3	63.1	67.1	61.7	63.0	64.3	67.8	55.5	39.2	43.3	55.9	53.5	
悪	い	10.6	9.6	14.8	6.7	17.2	15.7	12.9	15.4	28.8	51.0	43.3	29.1	38.6	
D . I .		4.9	12.6	7.4	19.5	3.9	5.5	10.0	1.4	-13.0	-41.3	-29.9	-14.2	-30.7	



- (1) 富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D. I. 「良い-悪い」は、今回調査の令和2年7-9月期では、マイナス39.2ポイントとなり前环比で5.8ポイント改善した。先行きについては、令和2年10-12月は回復予想となっているが、令和3年1月-3月は再度悪化する予想。
- (2) 製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前环比マイナス7.4ポイントの悪化、非製造業では前环比11.4ポイント改善している。非製造業については、小売業等で一部回復傾向が見られるが、宿泊・飲食業については依然として厳しい状況が続いている。

Ⅱ. 売上高状況

売上高状況の推移…… (全産業)

(%) 見込 予測

	30年				31	元年				2年				3年
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	
増 加	31.2	31.0	21.7	25.3	21.1	25.6	25.8	18.6	15.3	10.0	14.0	15.1	10.2	
横 ば い	47.0	54.7	54.0	61.5	56.3	52.1	56.7	52.5	49.4	29.5	29.0	45.2	48.4	
減 少	21.8	14.2	24.2	13.2	22.5	22.3	17.5	28.9	35.3	60.5	57.0	39.8	41.4	
D . I .	9.5	16.8	-2.5	12.1	-1.4	3.3	8.3	-10.3	-20.0	-50.5	-43.0	-24.7	-31.2	

売上高状況の推移…… (うち製造業のみ)

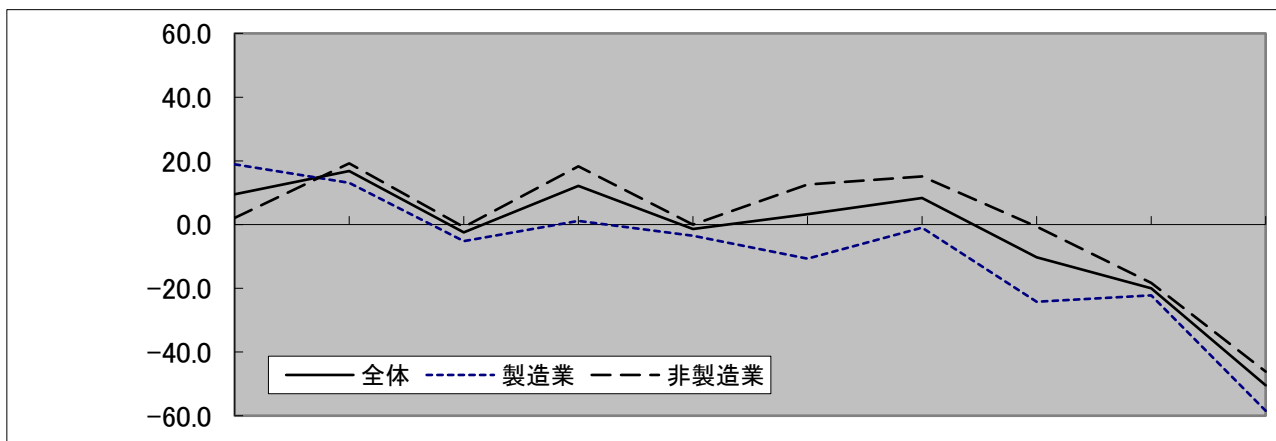
(%) 見込 予測

	30年				31	元年				2年				3年
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	
増 加	36.9	29.9	19.5	18.3	17.6	21.4	22.8	16.2	16.7	7.8	5.1	6.8	10.2	
横 ば い	45.0	53.3	55.8	64.5	61.2	46.4	53.5	43.4	44.4	26.0	25.4	42.4	37.3	
減 少	18.0	16.8	24.7	17.2	21.2	32.1	23.8	40.4	38.9	66.2	69.5	50.8	52.5	
D . I .	18.9	13.1	-5.2	1.1	-3.5	-10.7	-1.0	-24.2	-22.2	-58.4	-64.4	-44.1	-42.4	

売上高状況の推移…… (うち非製造業のみ)

(%) 見込 予測

	30年				31	元年				2年				3年
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	
増 加	26.8	31.7	23.1	29.3	23.4	28.3	28.1	20.3	14.3	11.2	18.1	18.9	10.2	
横 ば い	48.6	55.7	52.9	59.8	53.1	55.9	59.0	58.7	53.1	31.5	30.7	46.5	53.5	
減 少	24.6	12.6	24.0	11.0	23.4	15.7	12.9	21.0	32.7	57.3	51.2	34.6	36.2	
D . I .	2.1	19.2	-0.8	18.3	0.0	12.6	15.1	-0.7	-18.4	-46.2	-33.1	-15.7	-26.0	

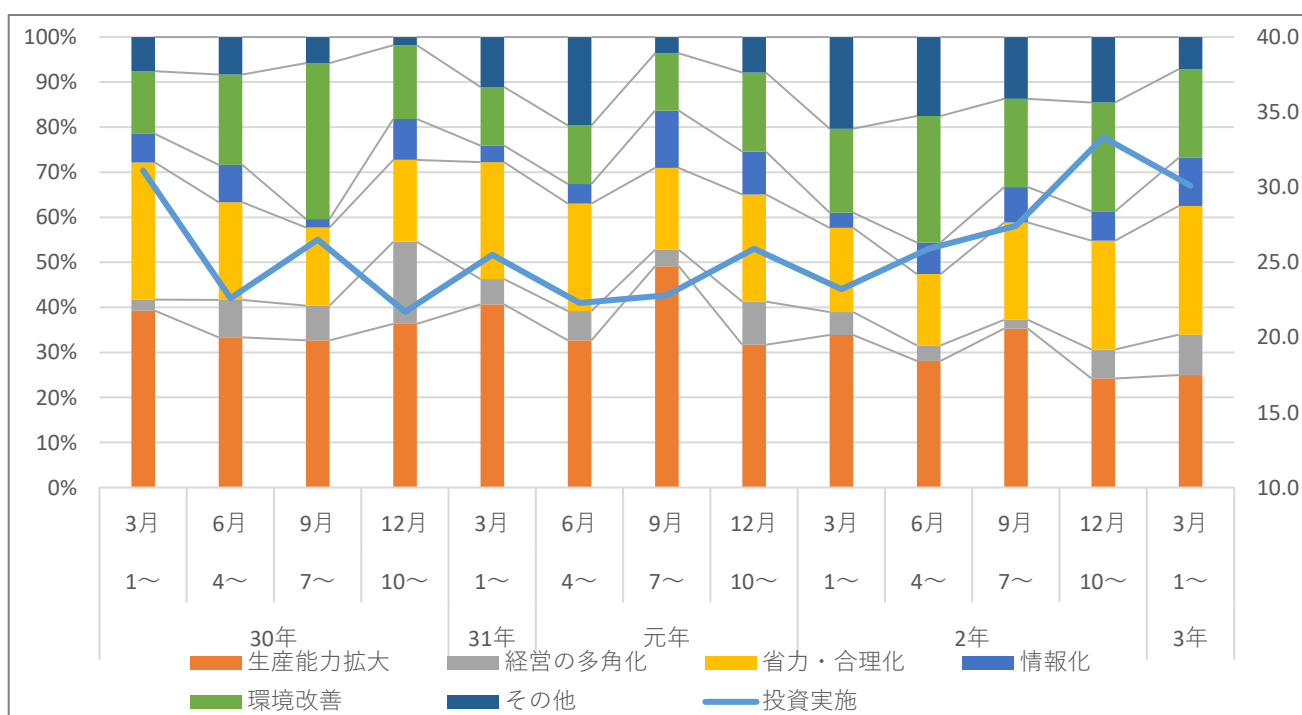


- (1) 売上高は、今回の調査のD. I. はマイナス43.0となり、前回比7.5ポイント改善となった。先行きについては、10-12月で減少すると答えた企業数が減り、D. I. は改善傾向の予想。ただし、11月からの第三波の到来により、今後売上を与える影響が懸念される。
- (2) 製造業と非製造業に分けてみると、製造業では前回比6.0ポイントの悪化、非製造業では前回比13.1ポイントの改善となっている。

Ⅲ. 設備投資動向

	30年				31	元年				2年				3年
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
投資実施	31.1	22.6	26.5	21.7	25.5	22.3	22.8	25.9	23.2	25.9	27.4	33.3	30.1	
投資せず	68.9	77.4	73.5	78.3	74.5	77.7	77.2	74.1	76.8	74.1	72.6	66.7	69.9	

生産能力拡大	39.2	33.3	32.7	36.4	40.7	32.6	49.1	31.7	33.9	28.1	35.3	24.2	25.0
経営の多角化	2.5	8.3	7.7	18.2	5.6	6.5	3.6	9.5	5.1	3.5	2.0	6.5	8.9
省力・合理化	30.4	21.7	17.3	18.2	25.9	23.9	18.2	23.8	18.6	15.8	21.6	24.2	28.6
情報化	6.3	8.3	1.9	9.1	3.7	4.3	12.7	9.5	3.4	7.0	7.8	6.5	10.7
環境改善	13.9	20.0	34.6	16.4	13.0	13.0	12.7	17.5	18.6	28.1	19.6	24.2	19.6
その他	7.6	8.3	5.8	1.8	11.1	19.6	3.6	7.9	20.3	17.5	13.7	14.5	7.1



(1) 今回の調査では、設備投資を実施した企業は27.4%となり、前回より増加した。また、設備投資の先行きについても、増加傾向にある。

設備投資を実施した目的については、コロナ発生後「省力・合理化」「環境改善」のための設備投資が多くなってきている状況である。

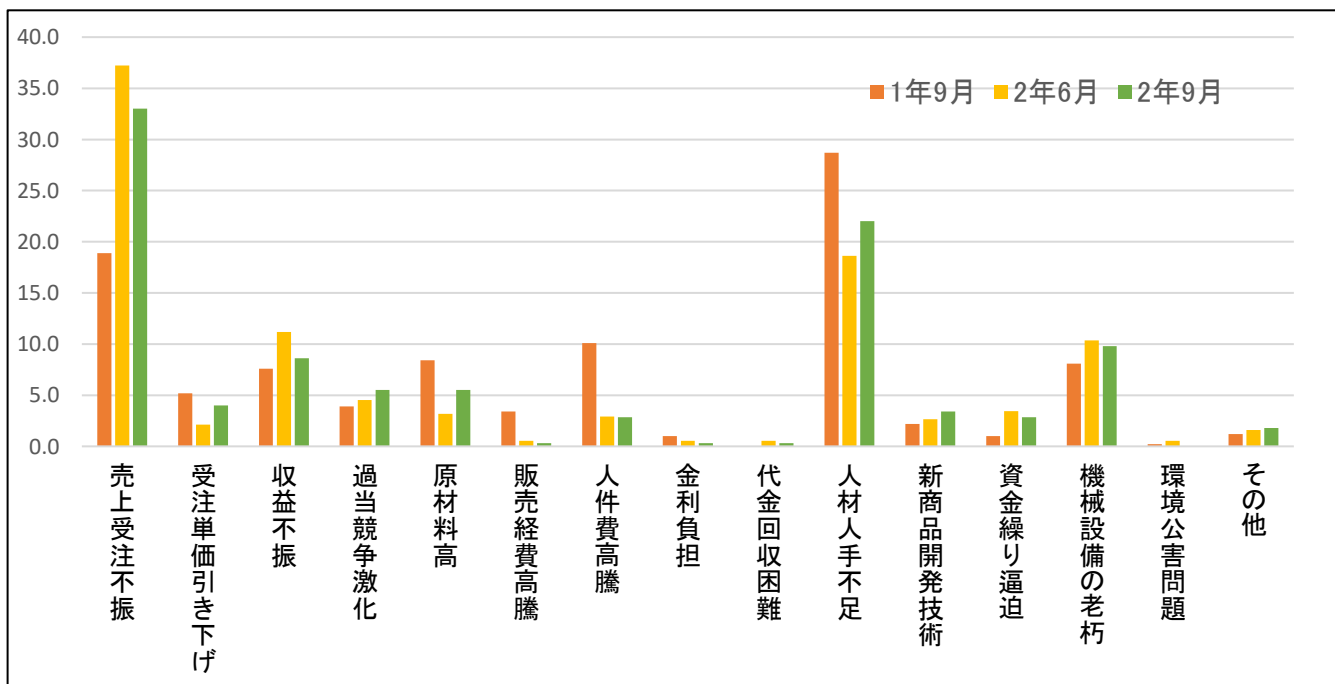
(2) 設備投資をしたポイントの高い業種は、製造業では、「電子部品・デバイス・電子回路」であり、非製造業では、「医療・福祉」となっている。

先行きについては、設備投資予定の高い業種は「医療・福祉業」「不動産業」となっている。

IV. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	1年9月 (前年同月)	2年6月 (前回)	2年9月 (今回)	2年9月 (今回)		前环比増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	18.9	37.2	33.0	(45.8)	(26.8)	-4.2
受注単価引き下げ	5.2	2.1	4.0	(3.7)	(4.1)	1.9
収益不振	7.6	11.2	8.6	(7.5)	(9.1)	-2.6
過当競争激化	3.9	4.5	5.5	(3.7)	(6.4)	1.0
原材料高	8.4	3.2	5.5	(4.7)	(5.9)	2.3
販売経費高騰	3.4	0.5	0.3	(0.0)	(0.5)	-0.2
人件費高騰	10.1	2.9	2.8	(1.9)	(3.2)	-0.1
金利負担	1.0	0.5	0.3	(0.0)	(0.5)	-0.2
代金回収困難	0.0	0.5	0.3	(0.0)	(0.5)	-0.2
人材人手不足	28.7	18.6	22.0	(12.1)	(26.8)	3.4
新商品開発技術	2.2	2.7	3.4	(4.7)	(2.7)	0.7
資金繰り逼迫	1.0	3.5	2.8	(3.7)	(2.3)	-0.6
機械設備の老朽	8.1	10.4	9.8	(12.1)	(8.6)	-0.6
環境公害問題	0.2	0.5	0.0	(0.0)	(0.0)	-0.5
その他	1.2	1.6	1.8	(0.0)	(2.7)	0.2



- (1) 当面の経営上の問題点として最も高いポイントとなったのは、前回同様、売上受注不振である。

次に高いポイントとなったのは「人材人手不足」の22.0%であり、コロナ前の人材不足の状況は改善しつつあるとは言え、まだ人手が足りていない状況である。しかし、人件費高騰については10.1%から2.8%まで大きく低下している。

また、「資金繰り逼迫」については、令和1年9月の1.0%から今回2.8%に増加しており新型コロナウイルスによる影響が大きい。